

祭 文

本日、ここ真田山旧陸軍墓地に於いて、戦没者ご遺族並びにご来賓各位のご列席を賜り、秋季慰霊祭を挙げるにあたり、公益財団法人真田山陸軍墓地維持会を代表し、謹んで御霊に申し上げます。

この陸軍墓地には、明治四年に我が国最初の陸軍墓地として設置されて以来、明治十年の西南の役より日清、日露戦争、第一次世界大戦、日中戦争を経て先の大戦に至る将兵五千百基以上の墓碑と、納骨堂には八千二百余名のご遺骨をおまつり申し上げます。

ここに鎮まりますご尊霊は、明治維新以降、先の大戦に至るまでの数々の戦役に際し、我が国の独立、平和、繁栄のために、祖国を思い、愛する家族を案じつつ、苛烈を極めた戦場において、あるいは、兵役従事中の病や事故で尊い命を捧げられた方々であります。

私たちが長きにわたり平和で豊かな生活を享受しておりますのもひとえに、過去幾多の国家の危機にあたり、尊い命を捧げられた戦没者の礎により築き上げられている事を忘れてはなりません。あらためてご尊霊に心からの追悼と感謝の誠を捧げたいと存じます。

私達は、先の大戦後、平和な日本を希求し、悲惨な戦争を二度と繰り返さないとの固い決意の下、平和国家としての再生を目指して懸命な努力を積み重ね、今日の繁栄を築き上げてまいりました。

今年5月、元号が“平成”から“令和”へと変わりました。先日の即位礼正殿の儀の天皇陛下のおことばで「国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います」と述べられました。

次の時代への幕開けとなった今年は、我が国が議長国として開催する G20 大阪サミットが行われました。「自由・公平・無差別で透明性があり安定した貿易と投資環境を実現するよう努力する」という「大阪宣言」が採択されました。

一方で、昨年に続き災害は頻発しており、8月に九州北部豪雨、9月に台風15号、今月には台風19号と、各地に被害を及ぼし、日常生活に大打撃を与えました。度重なる災害では、派遣された自衛隊員の皆様のお姿を拝見いたしました。人命救助、行方不明者の捜索、森林火災に係る消火活動、流出した油の除去作業、倒壊した木々の撤去作業、ブルーシートの設置など、作業は多岐にわたり、活動される姿には本当に感謝申し上げます。

海外に目を向けてみますと、世界のあちこちでテロや紛争が続いています。北朝鮮問題については、2月に米朝首脳会談、6月には現職のアメリカ大統領として初めて南北軍事境界線を越えて北朝鮮側に入国し面談し、実務者協議では意見が分かれて一進一退の状況が続き、日本平和へ関わる難しい問題は解決しておりません。

また、ニュージーランドやアメリカでの銃乱射事件、香港での反政府抗議活動、中東問題の深刻化など、混乱は続いており、厳しい国際状況にあり、世界平和への道のりは、まだまだ遠く、誠に残念な事と申さねばなりません。

先の大戦から74年が過ぎ、戦争を直接体験した世代の高齢化が進み、先の戦争そのものがどんどん風化していく昨今、この様な厳しい国際環境にあつてこそ、私達は平和の意味をしっかりとかみしめ、戦争の悲惨さと、そこに多くの尊い犠牲があった事を次の世代に語り継ぎ、世界の恒久平和の実現に力を尽す事が、多くの戦没者の思いに応える道であると固く心に期しております。

当法人は、昭和二十二年に設立されて以来、ご尊霊の祭祀をはじめ、この墓地の環境維持活動を行って行く中で、平和の大切さを語り続けると共に、歴史的な事実を伝えるためにも、当墓地を後世に引き継いでいくことの大切さを主張して参りました。

しかし、この霊地の墓碑は長い年月と共に亀裂、剝落が進み、この修復・保存が急を要しております。今後も外部研究機関の協力のもと法人内部での修復・保存事業を進めると共に、関係諸官庁への請願を行い、国家的歴史遺産とも言うべき、当霊地の維持保存に尽力する所存であります。何卒皆様の変わらぬお力添えを賜ります様お願い申し上げます。

終わりに当たり、御霊の安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、我が国の平和と繁栄、並びに、ご遺族をはじめ、私たちの行く末をお守り下さいますよう、お願い申しあげ、謹んで祭文を捧げます。

令和元年十月二十六日

公益財団法人真田山陸軍墓地維持会

理事長 吉川 秀隆